輿車図考

四

は
6
22

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

輿車圖考

七

東京圖書館

和書門	政書類	一〇函	五架	九八號	一二冊

は
12
22

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

東京圖書館藏書

巨萬津曾能乃於斯傳

文車

餝抄云文車久安五四廿或秘記曰中將兼長朝臣正
下拜賀中將車去年用常綱代今日始用檜綱代
文同是余例也

十月廿六日同記曰師長昇殿綱代車其文巖千鳥
仁安二二十五殿記曰殿久我被仰曰車文如何侍從同樣
如何故入道殿不御心時予中宮權大夫出仕之時令違
袖予本定彼才モクアン鶴又物見予緑青彼金青然者爭不違哉袖中ニ鶴ヲ
作テ令起如何被仰曰不可然此一家通文不不吉也
物見ニ令出簾如何予近衛使之時用之尤吉仍此

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22
ガラス使用

定ニ定ラル

通方案令子孫皆通文違先人御命如何三位師季卿
故典薬頭頼基養首鐘愛無他仍申請故殿令乗大
臣但物見金青無簾而近代彼兄等皆乗之塗緑青令
張簾簾ニ付総九種々秘計或大臣調此車出仕用
之時賀茂祭使令勤仕給而件時出来云ヽ又大臣食車
六条右大臣御車也而大相國殿令傳給公卿之後依六条
右大臣殿仰件車傳給楊梅大納言了大臣車仍先祖

者歟故右府御時出来歟固食車野行幸之時初出
来ヲ是僻説也自土御門殿御時出来歟
嘉禎三年五月廿七日久我恒例八講内府被入束帯被
乗上網代車（土白綱代袖書銭金ヲ）後日前内府被語曰我家西三
代不調件綱代車只調半部車乗也若花山之家例
欤且又大臣着束帯乗綱代車定無先例欤可乗綱
代者直衣若衣冠可宜歟吾家可用綱代之時借用子
息車常車也又彫物榻云ヽ件榻當家不調只自納言
大将之時用黄金物榻也一日又被懸下簾云ヽ同不得
其意如此遼遠之時不懸下簾也青侍語件車簾

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22
ガラス使用

端普通蝶圓ヲ書圓蝶二ヲ以墨消之云々以言大臣用
一蝶無案内雜掌如此調歟言一蝶者只圓蝶一ツヽアル
ナリ
九条殿車註文云文車
侍従中少将時召之
網代上形散千鳥立板石佐々千鳥 袖物見迫透乱文吳同下石松千鳥 物見緋青地白千鳥蟹甲金銅千鳥 御簾
五緒編糸村濃紫革小草蝶鳥平千見押之草前金物入之裏白綾
平手見ハ平手貝なるへし雅亮奬来抄舞人装束
云赤紐ハ[illegible]
[illegible]

[illegible]
赤紐流藤芳打なり有下繪押貝或只所々
押貝又舞人装束 赤紐有螺鈿 又賀茂祭車 紫草緒押貝
[illegible]
上巻組六筋七名一丈三尺鉄尺定青白茶[illegible]紫白 引手組四筋七名三尺六寸鉄尺定之八三紫白
[illegible]
左板物見内押綾和漢山水木立浪絵也 同縁錦四尺 棟緒茜糸
四両四組七三尺九寸鉄尺定
棟緒ハ棟融の事なるへし四組とはいさいふよろ打
[illegible]四ツ小組たる緒乃三尺九寸なるをあげる

きにむさしたるかるへし

下張色々色帋袖内亀甲押色々色紙御坐小文高麗緑國延金物如常

但雨皮付金物入蒜
総如殿上人総前打之

蛙抄云殿上人綱代車俗号之文車

四位五位中将少将及侍従外衛督佐等用之依年

齢之老壮有差老者白繪也少者平文也

箱如八葉但壮年人八袖格子三重襌如菱軒格子常ノ躰二テ三重襌非菱也老年人八併如八葉格子

綱代壮年人棟表并物見上下袖表等例ノ綱代物老年人物見所ト有大八葉其外又如平文

見板壮年人ハ外方緋青地一枚別扇各一本扇有四季繪扇枚別二有日形為見物之蟹甲左右前後同也

内方遠山霞飛鶴等画之老年人ハ黒漆以胡彩画扇疊扇以是老年之文車号白画車歟

をかりそまつ乃ちかしを龜甲にあらすあく
ゑまて扇の画はやうに日形をはくるかるへし
さまこもこれは見はもあらは文車ハ文なとも
けるしあれへきなり

同簾無之欤無所見同下立板壮年人ハ内方画圖以下併如半蔀有四季繪有錦老年人黒漆

如八葉金物外方無金物内方少々有之雨皮付不打轅各黄金物老壮共同之下張壮年

人ハ次色々帋紅萠林張之散霰老年人ハ以白色紙白黄淋白小霰張之融文融字或作通袖ノ内

ノ格子ノ上付文繪扇也一方二繪左右前後同之壮年人有融文老年人一向無是文棟融是角

総之事也壮年又紅糸老年人白糸各付前方棟木ノ下簾青簾如半蔀竹車等網藍草緑四緒壮年人有菖

蒲草老年人無菖蒲下簾事不可懸之不及沙汰

園を屬ふ隙正少將公輿の小ハ柴車の問答
乃中に採取を付き菖蒲草ナシとみえたるハ
殿上人の車にあるへきかさ星物ると隙正弼と並
たまへ質素をむすひ寄ふ物ハ異をしまや
おりふ菖蒲草ハ上のもにさうふのりんつきたる
草ふや侍らんをもんとて上のもなしにハあらし
うれハこの文なきをいふの又雨鞍ふ菖蒲物とて
菖蒲の柴のさくさ紀ハ劍乃やうにしたるを敷さい
鞍乃蒙のくのを右ハ付たるあてあまてをこれハ
へちに菖蒲草とふりのあるまもおりのる事と

古画まもみねハ上草乃こと為りとおもふのこと
疊小文高麗有引立筵鞦畝遣縄白布榻不可用之凡四位以下法也
有職抄云文車四位五位ノ人用ル事也其躰網代
二色々繪文ヲ画クト見ヘタリ或圖二網代屋形
ノ上ハ霞惣ハ岩ニ松袖ノ透文ハ桐ノ立枝物見
ノ戸ノ文ハツツ桐地ハ紺青ヲヌル簾五緒ハ淺
黄草総角ハ紅ノ糸ニテ是ヲ結フコノ腰板ニハ
左右ニ春秋ノ心ヲ色々カク也ト云々久安三年
四月廿日台記ニ云中將兼長朝臣正四位下ノ拜
賀ナリ中將車去年ハ常ノ網代ヲ用ユ今日始テ

檜綱代ヲ用ユ文ヲナシ同年十月廿六日日記ニ
師長昇殿ノ時網代ノ車其文巖小鳥ト云々文安
元年十一月廿二日大染金剛院ノ記云頭中将公
綱朝臣貫首ノ拜ニ来文車ヲ用ユト云々宝徳三
年六月廿六日将軍初度ノ院参供奉殿上人顕言
朝臣忠富朝臣永継朝臣以上文車ニノル長禄二
年正月十六日公継卿大納言拜ニ前駈殿上人教
國朝臣公胤朝臣文車ニ乗ル
台記云仁平元年二月十六日是日今麻呂加元服（隆長）
（中略）車常網代文石千鳥亀長物見畫千鳥簾草青此

新造也然而不撰日所乗始也
愚昧記云安元三年三月廿三日宗盛卿夏装束也
不更衣也従公事之時雖著諒闇之服参本所之時
如此随身諒闇也柳乗息侍従清宗車如何是平文
車也故保元度令用盛經車給也是八葉也重服人
乗平文車不可然歟
玉蘂云嘉禎四年四月十一日此日順孫忠家加首
服（中略）網代車（袖上透之其下網代松巖黜文亀甲物見塗紺青画千鳥是譜代文也委見繪様）
公茂公記云乾元二年五月廿一日早旦着直衣（中略）

網代車（文ノ車也）差網（車副一人遣之）

右自菟記ニノのやうあるによれハ文乃車といふ

へきなり

園太暦云延文二年六月十六日（仲房卿状息嗣房車事）車年

少之日可用乱文候物見文事可為何用候哉不依

文躰物見計ハ諸家常千鳥を通用候歟或又同文

勿論候間萑有便之様存候何様可候哉可為萑者

如生本可彩色候哉又可為白繪候歟千鳥ハ白繪

常事候白萑ハ何なるへしとも不存候鴛文ハ如

生本色ニ彩色候由見及候（下畧）

薩戒記云嘉吉三年六月廿二日（等持寺御八講）公卿万里

小路大納言（時房竹文平文九千息右兵衛佐成房車欤）廿三日公卿四

条中納言（隆盛乗折入菱平文車袖文子息左兵衛権佐房卿車鷲歟）

怪抄ニよりて老かの車と号せ少しのくは

なよたけ物ゝうにより一ツの文車ハ九条殿

御文ニよりて老しのハ怪抄ニよれるなり

綱代車

九条殿車註文云 綱代車任相國之後乘之大概不違尋常大臣車但物見上有横連子

公卿時召之

綱代白綱代以漆畫蝶物見紺青地白蝶丸蟹甲立物見内 押綾如先先縁錦同 御簾 五緒編総林濃無草前金物藍草遠文三蝶 引手組四筋長如先棟通如普通

蟹甲ハ内の首に陸子の引手のきも乃ありなのか孫乃風とうしろふてとゞるその上ふ丸きかるものをうつなりかたち此れハかくい名法もし

引手組ハ物見のすゝれ丹かゝる組結也如此とは
此後又文車乃次ニこの車を出さしたりてなり
文車の後ニ引手組乃そさしたるもの
下張（白色紙散白簿）御座如先々御榻（金物塗籠）
同云違物見御車同時召之
ちうぶ物見と名付くるおとゝいまゝ詳なし寸
綱代袖牡丹蝶上弁立板（大八葉已上染網代）御簾（編糸村濃藍草如常裏如常）物見立板黒塗金物如常外金物大臣以来不
打（云々）下張（白色紙散白簿）御坐如常御榻金物散物也
同云上白御車

綱代上白袖（白網代画牡丹）立板（大八葉）御簾（編糸青藍草裏白綾）
下張ハ下ハ前のおとし
同云上白御車
綱代上白袖龜甲立板（小八葉）御簾（薄青総糸藍草五緒裏白綾）小
簾（面青地錦縁裏白綾懸緒八筋）物見（外金物但開戸金物弁両皮付鉄散物也）
下張以下おなじ
蛙抄云綱代車（或号輦物見車或号袖白車大臣及納言大将乗用時可有此号自余公卿不乗袖白網代車之故也）大臣以下公卿用之（或抄云襲時乗之）多者
直衣之時乗用之又襲時若ハ遠所ゝ之時著束帯
差網乗之（差網車見左）但當家著束帯時打任テ不乗歟

可勘康永二八廿八御記

箱如八葉無半蔀無開戸三位已上無差綱代大臣棟ノ表弁物見ノ上白綱代無文物見下例

綱代青地金文袖表白綱代漆画之我家車文納言大将

棟表弁物見上下皆例之綱代青地黄文我家車文

也物見上細所無文細表如大臣大中納言参議之

時物見ノ上ノ細所二有小八葉此外無異于大将

差物見板黒漆長物見蟹甲如例大臣大将納言参議無差同下立板内方黒漆

如例大臣以下無差金物大臣内外黄金物納言大将外金物

散物模闕無外金物大臣以前内金物并簾

懸雨皮付等黄金物大中納言無外金物内金物蟹甲雨皮簾懸皆黄金物下張無簿大臣以下

差無之簾青簾藍草見半五緒如例大臣納言大将下

無差大中納言参議等四緒此外有上草

簾不可懸之大臣以下同之家説分明也三中抄云

千加倍物見車細代車号襲時乗之下簾或懸之或不

懸之他説畳大文高麗大臣大将同大臣大将同半蔀大

已丙様也火中納言参議等小文鞦同

大中納言搨大臣大将同半蔀火中納言黒金物綱同上遣牛童之時可差遣縄欤具見左雨

皮同上車副牛童雨皮持等同毛車

桃花蘂葉云綱代襲時召之下簾尋常也綱代上白袖如半蔀立板

大八葉簾如常

執政之時称綱代始召具布衣随身時用之其已後

襲時毎度用之不引移馬上薦随身烏帽子猶乗私

馬在車後寂寥々之時或牛童遣之檳榔八葉等不

被立外車宿庇半蔀綱代等立之建暦元年八月十

二日玉蘂抑予綱代車日者所用之文只不兼大将

之時車文也件車文三重たすき乃うらのみうあんるり依不審尋問或者故入

道殿故殿御時
造立所別當也之處申云文治二年入道殿御摂籙
之初有沙汰故内大臣殿令用此文給了（謂此文大
八葉袖ハ
楊たるなり）其後建久二年故殿渡御一条入道殿之
時于時大納言大将也（文治五年
十二月卅日令任左大将給也）沙汰同被用此文
了不可有不審事也云々為備後代記之繪様又續
入之建保四年二月十三日同御記未時許參内網代
車依破損召中将公雅車用之懸下簾用殿上人若
八葉車之時先例如此故實云々
同云網代車（無庇眉如常八葉物
見不開之無葦戸）身雲客時至大臣
并摂關時用之各有差別襲時衆之大将衆用車號

遠物見車摂家大臣以前不打外金物凡家打之云々
當時八葉車大略同網代者歟
有職抄云網代土御門大納言抄曰網代ニ庇ヲサ
シ或ハ連子有或ハ物見ニ簾ヲ掛ル ハ摂政關白
大臣大将是ニ乘ルト云々今案ルニ此外上白同
前也又網代二庇或連子等ナキハ納言以下用ユ
ヘキ也仁平元年二月十六日隆長元服網代ノ車
ヲ用ユ網代ノ文石千鳥龜物見ノ繪千鳥簾草青
今度新造ノ由父左府ヲ記ニ見ヘタリ
摂關兼安五年四月廿七日今日良通侍從幷賀二

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22
ガラス使用

綱代ノ車ヲ用ユ嘉禎四年四月十一日一音院關
白元服ノ日參內ニ綱代ノ車ヲ用ユ
諸家建保四年七月京極黃門季御讀經之日綱代
ノ車ヲ用ユ曆應三年八月廿二日右府師平ノ息
元服二中院大納言通冬彼亭ニ向フ綱代ノ車ニ
乘ル貞和六年正月朔日院ノ御藥ニ東宮大夫實
夏綱代ノ車ヲ用ル也
愚味記云仁安二年十一月十日今日若宮五十日
御行始也戌剋斗出給殿御車上白外
同云兼安二年正月九日左相府始可渡給中將相府
烏帽子直衣前駈三人布衣車綱代有
外金物也
從
山槐記云治承三年三月十五日北政所令參大原
野給次又可令參寺白河御車上白牛童遣也
吉記云元曆二年五月三日今日汰勝寺卅講第三
日也仍午剋參入經直衣綱代車差
侍人在共
玉蘂云嘉禎三年四月十日小女依為明義門院御
猶子義始參彼院最密々儀也予長物見車綱代
副四人布衣
公衡公記云永仁六年七月十八日今日初乘綱代

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22
ガラス使用

は
12
22

車袖并上白絅代差網車副四人遣之

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22
ガラス使用

輿車圖考

八

は
12
22

東京圖書館

和書門	政書類	一〇函	五架	九八號	一二冊

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

半蔀

大八葉

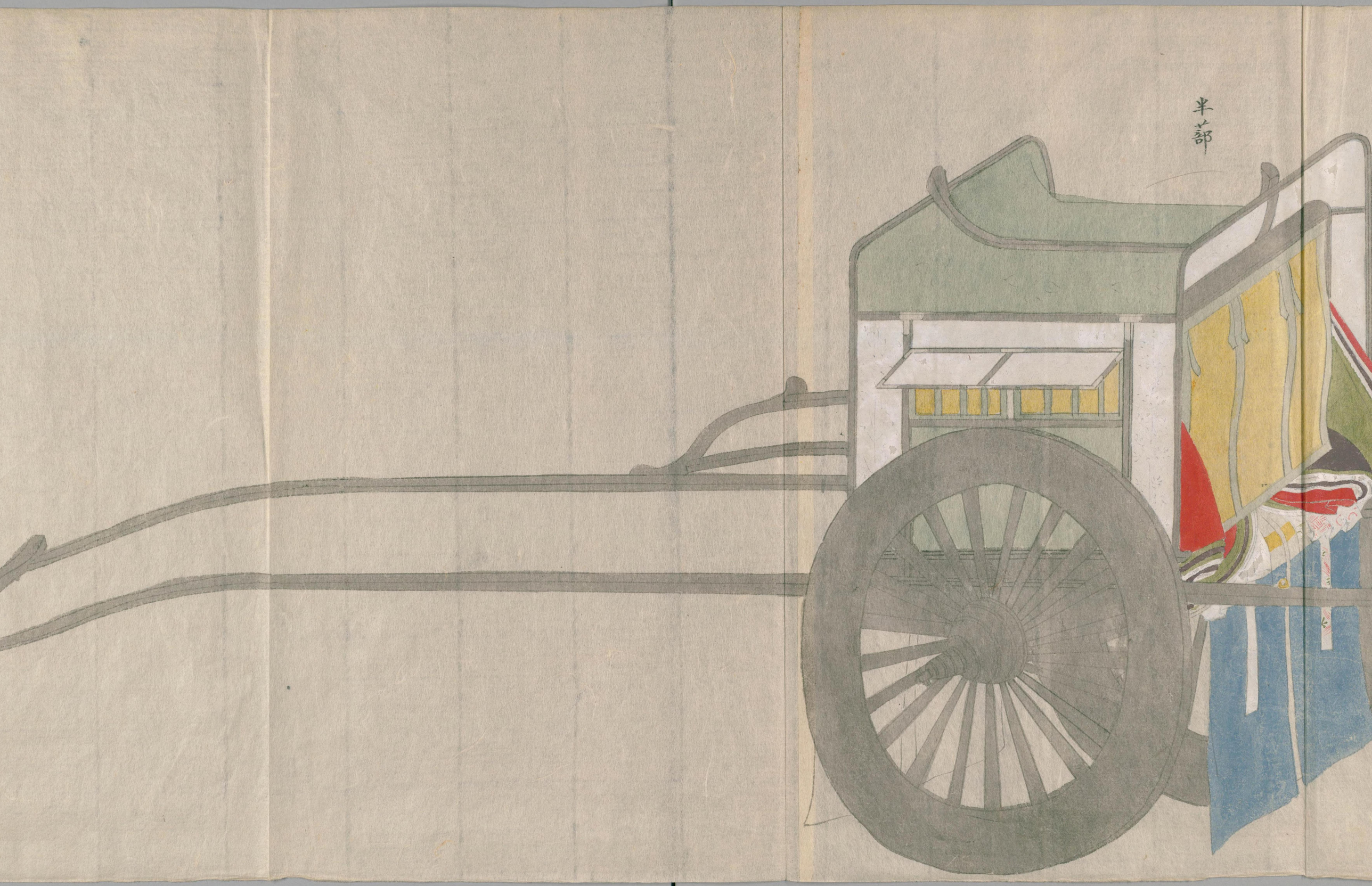
東京圖書館藏書

八葉車

巨萬津曹能乃於斯傳

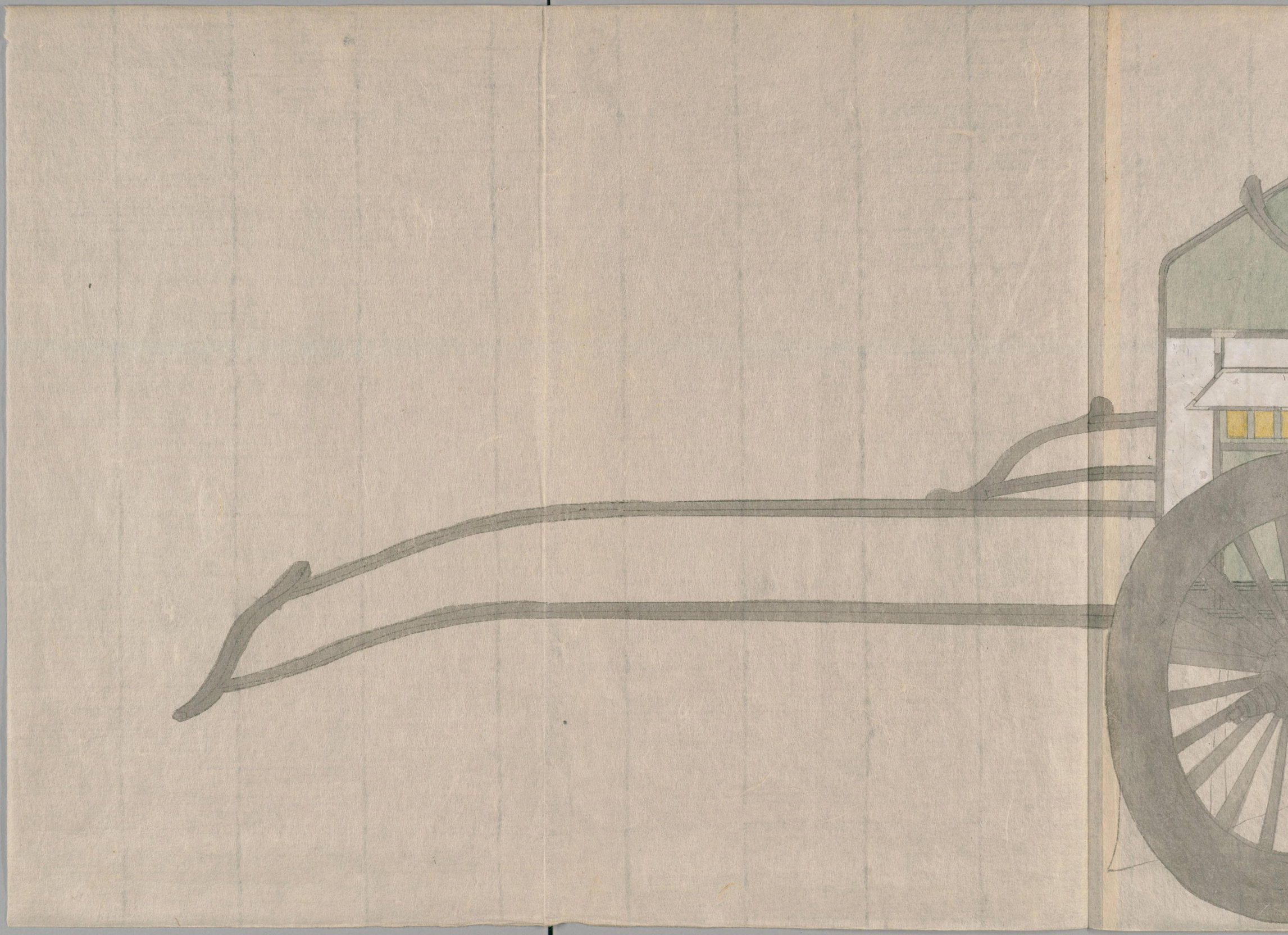
国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『輿車図考』　請求記号　は-22

ガラス使用

東京圖書館藏書

八葉車

餝抄云八葉（付小八葉）大八葉五緒長物見極位人大臣乘之而近代多乘用不可然云々

賀茂祭日辨已下車

保元二四十一御禊權右中辨惟方（五位藏人左衛門權佐）車不切物見

仁安三四十五右少辨重方車小八葉外記史無物見

保元四々十一頭右中辨雅教朝臣車八葉物見如例赤鞦黒牛

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22
ガラス使用

嘉保二四十二有信問答江納言

車用八葉籧篨而文依有例頗大八寸許如何予曰八葉文大小更不可有異儀時範為六位撿非違使之時繪籧篨是經幸相議所為也凡無使宜於八葉大小者殊可無其差別又車物見不可開是先例也予為廷尉之時奉御禊前駈之日兼房朝臣為見物陳云所感事二所傾事二所感事二者一者客額是為廷尉一者車尤可如此（不開物見）所傾事二者一者府隨身帶鷲尾胡籙（切文）可負鷹羽胡籙也一者冠巾子頗高云々（是一院藏人左將監為李所傳語也）

嘉保二四十七御禊

右衛門權佐時範車（八葉緦代抄立不開物見黑鞦伊尭比遣繩）

蛙抄云八葉車上下男女真俗相通褻時用之箱（如例）

網代（大八葉棟表并物見上下袖表皆例網代青地黃文大八葉文大臣已下四位五位無差）

物見（長物見是本儀也切物見是略儀也內外黑漆有蟹甲長物見時前後左右有大臣等刷日物見懸簾事有之正和五切物見懸之）

同下立板（黑漆如例）金物（內方黃金物兩皮付又同之上下皆無差外方上下一向無之）

下張（彩紙無簿上下皆同）簾（同半蔀網代等大臣大將五緒大中納言參議等四緒此外有上草）

下簾（青未濃見半蔀外堅固內儀之時簾懸之是相忍之時儀歟其外不懸之歟）疊（大臣大將大文高麗）

大中納言參議已下小文高麗有引懸筵鞦（太畝）榻（大臣黃金物大將散物黑銅家例也大中納言參議等黑金物同毛車）遣繩（白布二抄也長廿綱半分也崎ヲ木ノ鼻ニ付之或差綱准用綱代牛）

車時車欤雨皮同上殿上人已下令乘用者雨皮付不打轅又不用榻及雨皮只用張筵許候尋儀

有職抄云八葉土御門大納言ノ抄曰大八葉五緒長物見ハ極位ノ人大臣是ニ乘ル然ルニ近代多ク乘用ス不可然事也ト云々或抄ニ曰院ノ御車ノ文内ハ大八葉袖ハ唐草上ハ白是時ノ時ノ御車也又大八葉ノ長物見褻時ノ御車也ト云々親王長物見ノ小八葉一ノ人上ハ白袖ハ牡丹内ハ嫡子ハ大八葉次々ハ小八葉也是晴ノ儀ナリ又大八葉ノ切物見褻ノ時ノ車也ト云々又淺官外記史等ノ輩モ小八葉ヲ用ル也但下輩ハ物見ヲ切サル事也

院　建保四年四月十四日加茂祭院密々御見物八葉車ニ乘御貞永二年七月十七日上皇太政入道川東ノ水閣ニ御幸八葉ニ乘御貞和四年十二月廿日新院初テ八葉車ニ乘御

摂家　正和三年閏三月九日光明照院殿下院参ニ大八葉ノ車ヲ用ユ同四年二月十四日東宮初テ蹴鞠ノ時閑白八葉ノ車ヲ用ヒシナリ永享十年二月五日後福照院吉田社ノ参詣ニ八葉車ヲ用ユ寶德四年三月四日將軍家花項花遊覧ノ時

大染金剛院八葉ノ車ヲ用ユ長禄二年六月十一
日将軍家著陣ノ習礼ニ大染金剛院八葉ノ車ヲ
用ユ

将軍家　建久元年十一月八日鎌倉右大将頼朝
上洛ノ後初テノ参内ノ時網代ノ大八葉ノ車ヲ
用ヒラル嘉禎四年二月廿三日七条将軍頼経上
洛ノ後初テノ参内ニ八葉ノ車ヲ用ヒラル康暦
三年正月十三日鹿苑院准后時一位大将ニテ恒
例参内始ニ此車ヲ用ヒラル永享三年十二月十
一日普廣院将軍于時一位大将ニテ新造ノ室町
ノ亭ニ移徙ノ時此車ヲ用ヒラレシ也文安六年
三月十一日普廣院将軍新造ノ亭ノ移徙ニ八葉
ノ車ヲ用ヒラル

諸家　貞和二年十一月九日風雅集竟宴ノ内中
園相國前左大臣ニテ八葉ノ長物見ノ車ヲ用ユ
物見ヲ開テ藍草ノ立緒ノ小簾ヲ掛ル内方ニ掛
ル也同三年二月晦日上皇天龍寺ニ臨幸ノ日同
相國八葉ノ車ヲ用ヒラレシナリ嘉吉三年四月廿六
日洞院ノ右大将拝賀ニ八葉ノ車ヲ用ユ宝徳二
年七月五日将軍家直衣始ノ参内ノ供奉ニ花山

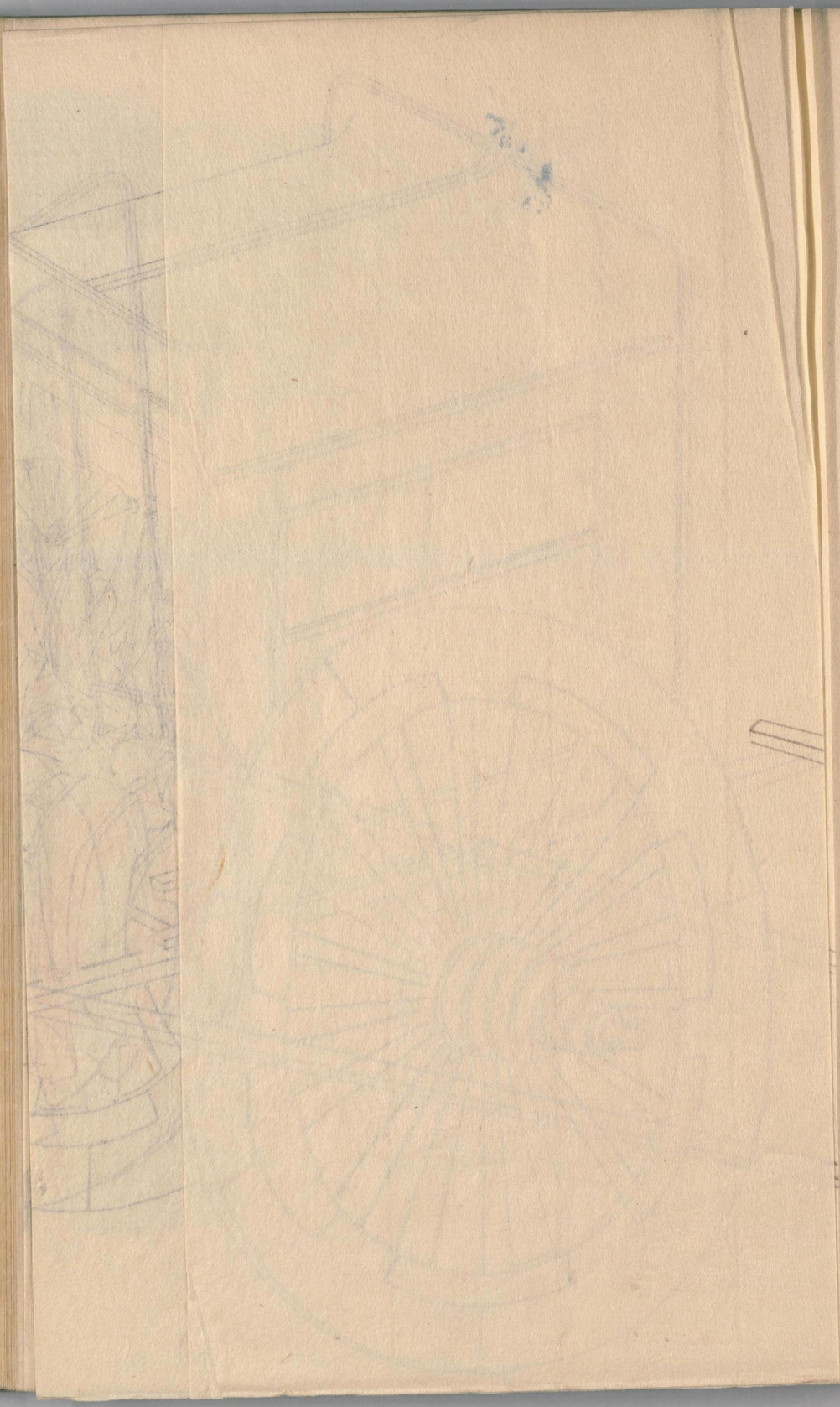
国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22
ガラス使用

院中納言八葉ヲ用ユ但綱代ニアラスト云々同
時三条中納言侍從宰相等八葉ノ車ヲ用ユ
實豊卿口傳聞書云七葉八葉ノ車下ハ矢ヲ通
所ノ外カハニアル平ノ丸キ木也（土地ニ付カタメノ木也）葉
八ツアルヲ八葉ノ車ト謂也とるまたつゝ いひのひ
きん
玉藥云嘉禎三年正月廿七日此日前博陸始被向
左府亭後聞烏帽子直衣八葉車（長物見牛童遣之）
同云嘉禎四年正月九日是日攝政女子行始也為
見彼出立相伴女房向一條密儀也（中畧）八葉車懸下
簾侍三人也
園太暦云貞和二年十一月九日（凡雅集竟宴）出門（予車八葉
長物見物見開之懸藍草五緒小簾内方懸之也不巻之常鞦差縄車副四人遣之警蹕如例也）
後深心院關白記云應安四年四月廿七日今日内
覧宣後初令出仕秉燭之程著直衣冠八葉車（不懸下簾
牛童遣之）
同云應安五年五月二日今日新院御幸法住寺殿
（中畧）御車寄權大納言公豊卿（著布太）連軒八葉車懸下
簾神木在洛之時如此云々
吉記云安元二年四月廿二日（賀茂祭）中宮使車（上綱代霞）

文中絇代崔中八葉物見黒漆畫崔袖外ニ緑青彩
色色付彩色八葉大袖内寄子色紙形蘆如例
山槐記云治兼三年正月廿一日今日著直衣用日
來車中八葉切物見
大理來車也
吉記云養和元年九月廿七日轂車用日來車昇大
辨之後可改八葉否之由雖猶豫諒闇中輙不用新
況於卒尓乎故都護納言顕大辨藏人頭之時用三
八葉雖繪絇代難小八葉猶訪先達退可左右
建久五年四月十八日記云賀茂祭中宮使藏人頭
右大辨兼亮宗朝朝臣車三八葉中小八葉例絇代
也

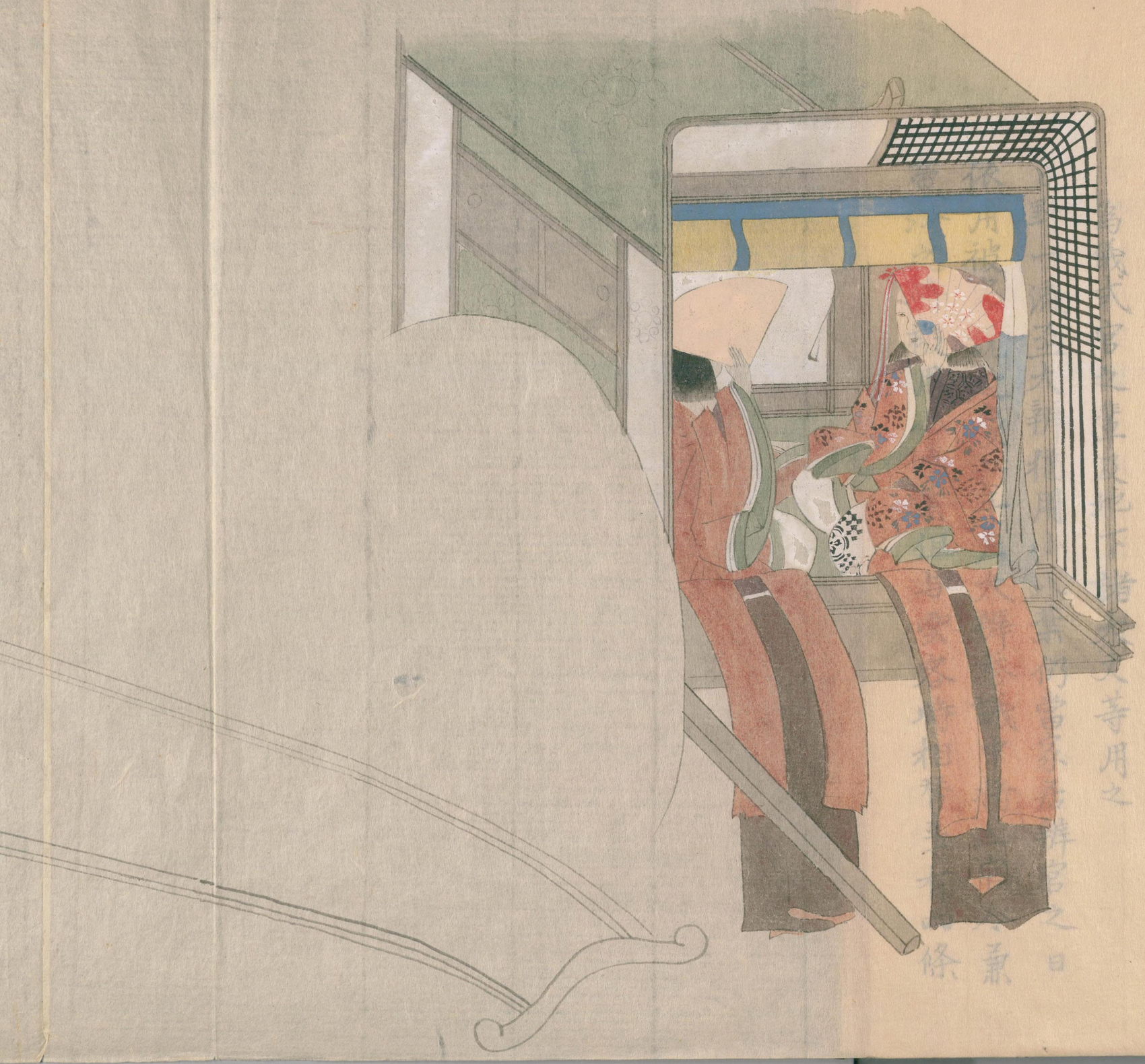
古画よりうつし

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

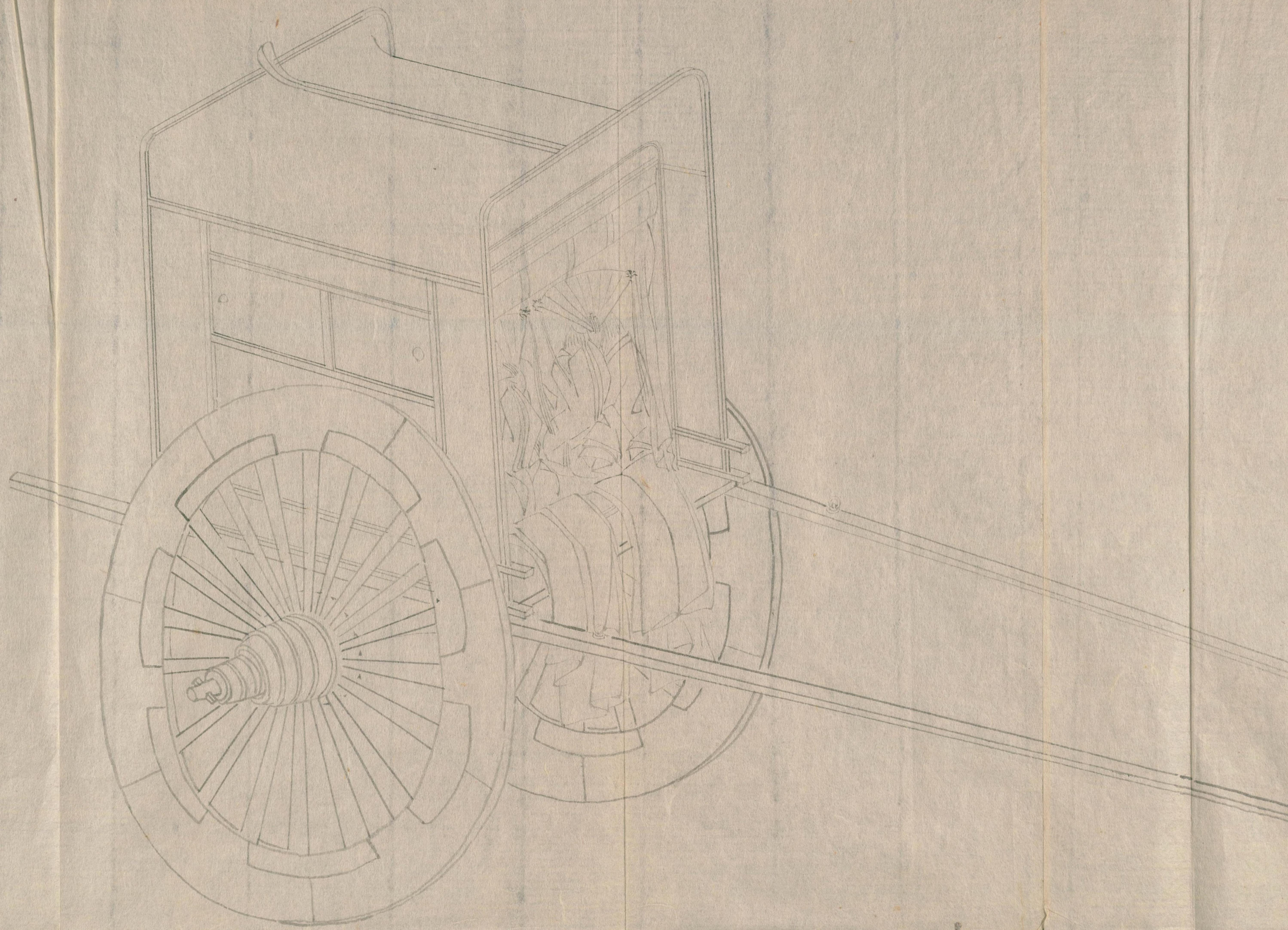
ガラス使用



小八葉車

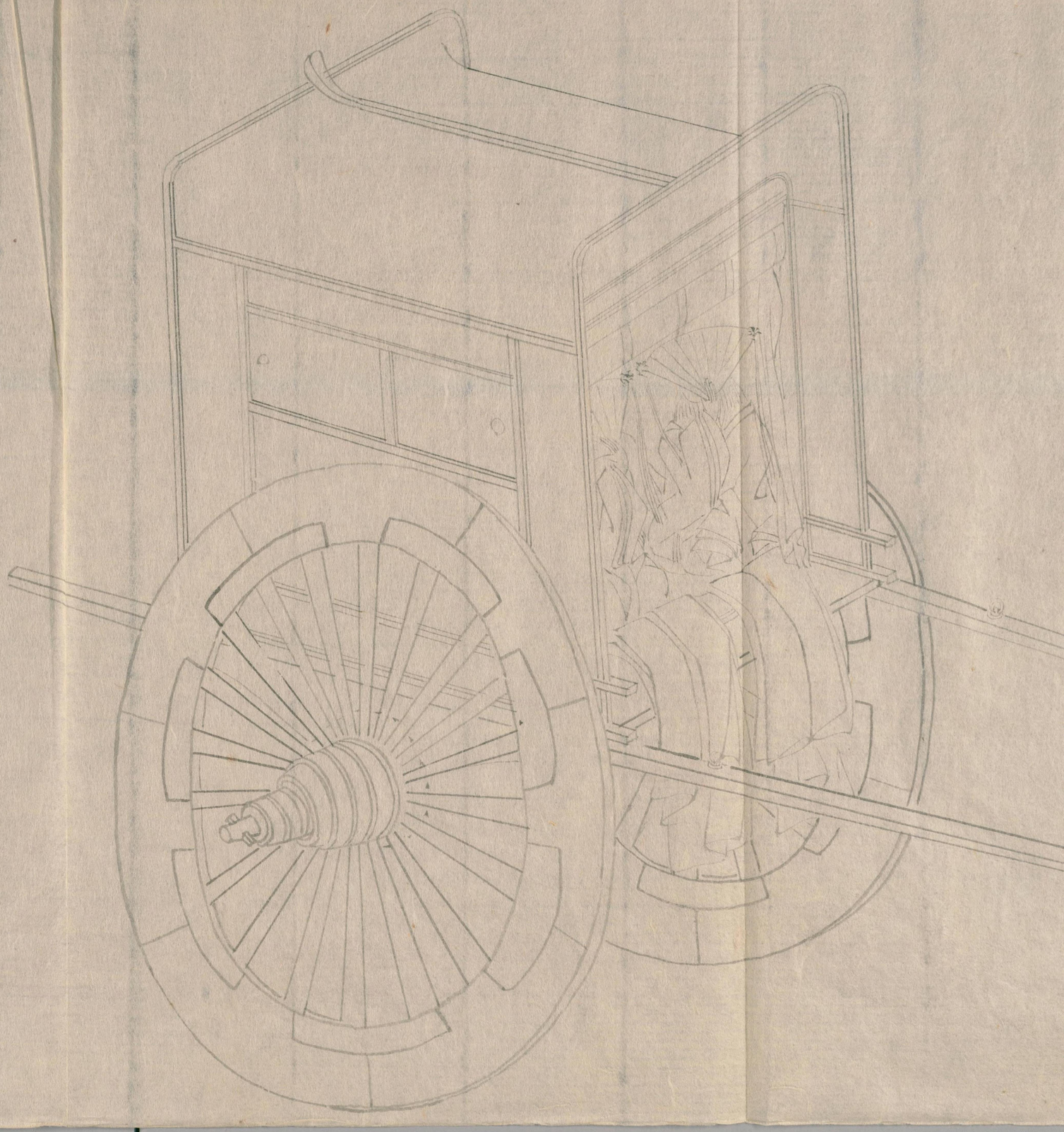
門室有職抄云親王長物見小八葉常車也一ノ人
上ハ白シテ袖ハ牡丹中ハ嫡子ハ大八葉次〻ハ
小八葉也此精儀也又大八葉ノ切物見此藝儀也
云〻
娃抄云小八葉車辨少納言外記史延尉弾正弼等

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

小八葉車

門室有職抄云親王長物見小八葉常事也一ノ人上ハ白シテ袖ハ牡丹中ハ嫡子ハ大八葉次〻ハ小八葉也此晴儀也又大八葉ノ切物見此褻儀也云〻

蛙抄云小八葉車辨少納言外記史廷尉弾正弼等為儀式官之輩及地下諸大夫等用之

日野一流至大辨猶用小八葉仍當家居辨宮之日依用被家説延慶二年左大辨参議中将三官令兼帯給之時被用小八葉但与雲客時相替事有両條

其一者袖表文有扇各二本如例左大前臣合八本也常小八葉八無袖文只小八葉文意解ナシ其二者雨皮付打轅常小八葉伏殿上人不打轅以上兩條或佐公卿或佐羽林所相替也當家辨少將之時袖文又同之雨皮付不轅

箱如例八葉網代棟ノ表以下各例網代情地黄文八葉斤棟ニ六左右合十二物見細所ニ五左右合十同下ニ八左右合十六袖表名二左右前後名八長物見黒漆簾青簾如例四緒下簾不及沙法疊小文有引懸筵鞦黒鞦彈正延尉不能左右其余ナシ少納言赤鞦家説ニ公歟々為少納言兼大弼之時猶赤又弁宮時同之家々義可尋遣縄白見八葉所

右依家々之義有區々之説然而今注旨為我家之例證非他人之採用而已海人藻芥云大八葉車者

俗中大臣已下公卿僧中僧正以下僧綱用之小八葉四位五位雲客僧中有職非職等用之攸車家ノ文網代組付又袖陰書之顕職殿上人乗用鎮職者藏人頭内藏頭五位藏左右兵衛佐等人五位等侍車竪縁不打之

有職抄云八葉弁外記史物見ヲ切サル事保元二年四月十一日御禊右中辨五位藏人車物見ヲ切サル由見ヘタリ仁安三年四月十五日同祭右少辨重方小八葉外記史物見ナシ治承四年四月十五日祭ノ日少外記中原貞親左大史大江盛景共二物見ヲ切ス治承四年四月十一日初齋院ニ外

記史車物見ヲ切サル由見ヘタリ藏人頭ノ車物
見ヲ切ト云々
明月記云建永二年四月十六日賀茂祭春宮使亮右
中辨範朝臣車小八葉有物見金銅八葉付之例也
同云寛喜二年八月廿一日午時許出中御門西冨
小路東見物中畧網代車小八葉長物見牛童二人師口虫禎茭茨
園太曆云文和四年八月廿八日頭右兵衛督教光
朝臣送状拜賀事条々示之中畧問車袖文中小八葉
五位職事之時如此答頭弁之時ハ如此候歟不兼
辨官之時小八葉如何然やらん不覚々へとも被
用之条何事然哉と覚然
康富記云文安元年四月十八日賀茂祭今日行列
六位外記清原忠種今年巡番乗小八葉車但有立縁内二被申請訪事
宰相明豊朝臣車之故也向一条堀川行々列車判官大判事
明世也渡車前之後外記皈宅云々
吉記云安元二年五月廿八日今日着鈦政也中畧次
佐右佐光長駕車如例不用物見簾懸草皆入中と結淬出之
こ孔ハ廷尉佐の車なり
園太曆云貞和四年五月廿八日彈正少将公興朝臣車車
箱如普通八葉車擔袖并屋形内簀子召之但表物見内外画図妄之金物総前之

箱内 無障子并画圖皆黒漆 物見上連子彩色如件

網代 屋形上并物見上 下小八葉袖棗文

棟融不付之

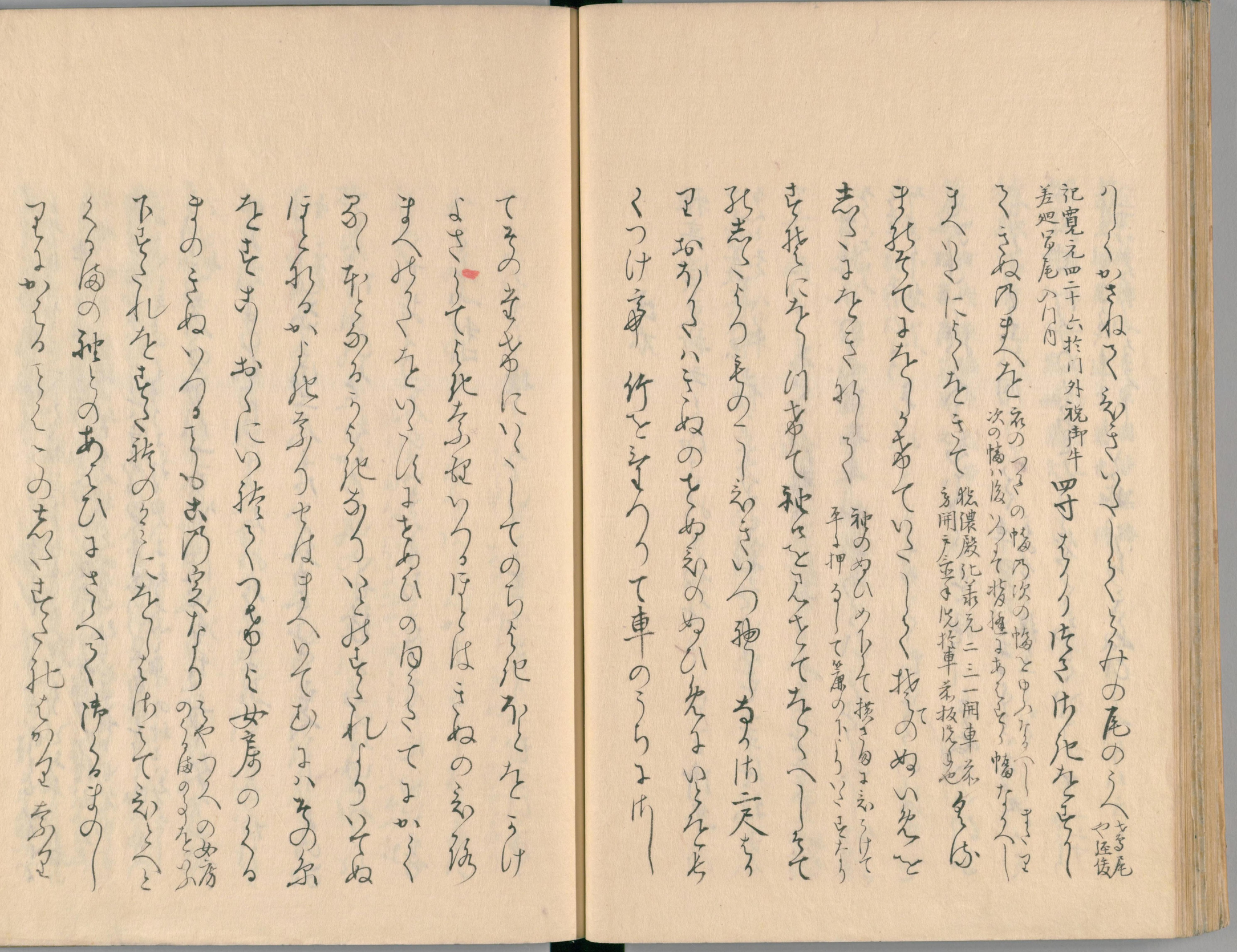
簾 四緒浅黄編糸浅黄 無段菖蒲草皆之

半帖 小文 高礼

これハ隆正弼の車なり
古画によりて此圖をかくところはつまをとて
なハ年中行事の繪によるなり

出衣

雅亮装束抄云くるまにきぬをいたす事 御車乃
御幸御政御姫君なんとさま人の車 よりるはきぬをいたす事はならしめん
もしたるしきさうぞくのこにいるふをたとふをうたへ 下さき秋をと
つねのことなれ たくとりふ つきのきぬを採てかさねのあはひよくとかへし 下簾をつき
うへてぬあいひよう おもてをいふ をぬらしさやうくちとそのはさをと
をさしてぬへくにおよいさをも神しきねのいれになる
すゑくるをぬゆりたく 車の左右にあるすゑくある乃りこ みのなり袢立とかく
二三寸はかりくるまよりあさくおさいたして そこより二三寸
そてハいとさるへし下より二三寸かさをりふなるへし を捩てうちきぬひとへうハさうら



りしくかさねて見さいてしらくとみの尾のうへ（七尋尾や逕後）
記寛元四二十六於門外祝御牛差廻冒尾八月月
四寸 ちりけさ出紀をまとし
てきぬ乃まへを（衣のつきの幡乃次の幡とゆふなるへし まさまさ次の幡ハ後ゆゑて背垂にあるまとう幡なるへし）
まへいてにしくをきて（猿濃殿紀義元二三一開車衣房開戸金手況於車衣板先也）多は
まれそてにをしらせあていてしくしくしくて拔きのぬいめを
志てこにをきれしく（袖のぬひめにて横さ目に見つけて平に押るして簾の下よりいさまたり）
きれにをしけあて袖をとんをてをくへしそて
れ志てうしものこし見きいつ袖しなり出二尺ちり
里おかりてハきぬのをぬ見のぬひ見にいとを出
くつけ事 行をまうりて車のうちに出し

てその前にいこしてのちに紀をうけ
よさしてに紀を見はいつるほとはきぬの見給
まへれてをいこれにをあひの目うてにかく
ゐしをしるうに紀なりいとおきれよりいそぬ
ほとれるかに紀なりやはまへいてむにハその糸
をきましおくにい結てくつをもと女房のくる
まのきぬいつるにも出乃定なり（うやつへの女房のうる後のまをかふ）
下きこれをきて結のうにをしたにて見えへと
くる後の袖とのあるひにさしへて御くるまのし
まるかくるこしくこの志てきて紀をかるを

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22

ガラス使用

さし拾紀たまとも云る海に乃りてくハ女房ハ
いふとも車にハつゝ三年ハ[illegible]もこゝちよりさいり
あゝんし
とへさこしハ女御まいりまもありあゝ先いけく
まちきぬ[illegible]ゝ海つ孫のおとし
増鏡云文永も三年まれりぬ外月に蓮花王院
供書にハ御本あり中略女院大夫は御車ゝ
平准后も乗りまふ人たまひ三面まゝいまゝる
五太なり御車のたゝりに仕ふまつる[illegible]上臈
たる人のこやあるをは五太藤のこゝき神[illegible]

さゝ
左経記云長元四年九月廿五日天晴午刻上東門
院令参石清水給中略殿上人皆布衣中略御車外人給
三両一尼鈍色二俗皆紅色
長秋記云元永二年四月十五日中官行啓上皇御見物
如例女房車十両廿人皆出菖蒲衣
同云大治四年正月九日摂政大相國長女従三位
聖子入内云々中略主人乗唐車後殿上云々出皆紅
太件車本院唐車當日女院入内給乗車也不乗輦
車直乗之入給者件車後太出自車左前例車後人

乘右方歟後車人女御母氏云々
同云天義元年四月十九日（賀茂祭院女院御見物）房車五兩
下仕車一兩出菖蒲衣紅打衣欵冬表衣二藍唐衣
裳腰件兩物付金紋
台記云久安六年二月九日御車（唐御牛黒）御車副六人
（白張白衣平礼）牛童（檜皮色上下薄色衣）御裝束白掛十五（鶴康茭）白三
重單衣濃打衣白表著（紫青杏葉文）赤色唐衣（青黄杏葉文）地
摺裳御車後女房（故伊実卿女）紅薄様五白單衣紅打衣
萠黄表著赤色唐衣白腰裳紅張袴左衛門權佐定
長（御後騎）出車二（兩車）云々女房各四人乘之二色六紅
打衣裏歟冬表著蒲萄染唐衣白腰裳紅張袴簾外
持扇扈從三人
愚昧記云仁安二年三月廿三日女御殿女房車三
兩紫衣染五領同打衣松同唐衣歟冬同裳腰御車
後出歟冬白衣
人車記云嘉應元年六月五日（建春門院入内）次女房車毛
車十兩各二人乘之（出太蘇芳草重紅打衣女郎花表著二藍唐太薄色裳白腰張袴著之）
同云嘉應元年十月廿日入夜齋王自大炊御門亭
行啓卜定所（中略）出車五兩女房廿人出白衣袖妻等

蘇芳表著濃袴

玉海云兼安二年七月廿一日今日摂政若君被参女院余佐物忌不指出其儀以傳説聞之唐車出紅太車副六人白襖上下濃打太出車五両擯揶乇出女郎花衣同云建久七年三月二日着直衣烏帽淺黄綾指貫内大臣來烏帽直衣綾薄色奴袴先寄出車車對北妻也能季朝臣資家等寄之三両皆乘之出衣如恒柳櫻五領紅草太紅打衣花欵冬表着蒲萄染唐衣白腰裳一車左中将親能朝臣二車左少将成家朝臣三車侍従頼房等也車副衛府二人着布太相副之次半物二人欵冬白五領青草衣紅打太紅浅袴於門外乘車非藏人康業車也衛府一人内舎人一人別也雜仕二人雜仕薄萠木袙三領紅草衣朽業清降惟懸帯諸家雜仕被制紅草衣然而摂録家不可混諸家仍被免半物也准被令之小女二人色々袙三領蘇芳草太已上乘侍車自采路参上不行列路次也次東屋寢殿南面寄女房車庇青下簾下家司六人着布太付轅内府立屏風几帳等此間新大納言三位中将等大納言冠立衣中将布太来臨在面上達部座方々女房車紫薄様九領白合草二重織物打太表著同俤接小褂車後出衣二色六領紅草太紅打衣表著赤色唐太御堂御前同車故内府室家右大臣姫也絲色匂織物褂十領濃匂色合衣々白生袴下畧明月記云建仁二年正月廿日院御幸出車資季車女房出鈍色衣有裏淺黄等類唐太裳同之

同云寛喜二年二月廿三日此中宮女房車二両立
相門御桟敷之西雅継朝臣車（萌木白紫白）通忠之車（うすと）
（きへき江あひ）
世俗浅深秘抄云糸毛車ニハ尾ニ衣ヲ不出間々
出之然而失礼也
台記云久安六年正月廿二日庚子降雨及晩得晴
午刻計参御前頃之渡御女御（中畧）帰東三条（中畧）次女
御乗車三位謂夫人候其後（伏為絲毛不出衣）
同云久安六年正月廿八日丙午晴是日三位蒙輦
車宣旨退出（中畧）次三位乗輦坊門殿乗其後（右大将女出衣）

（伏非糸毛也）
出しきぬいつへ乃そうせくおとなふさもかなさに
かなそうせく抄にとりこゆ　為と役るれこかる
せうしくハ毛野清良及ひこのり義の説なと
にもとつさてしなせ

15
12
22

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用

12
6
22

国立国会図書館　　タイトル『輿車図考』　請求記号 は-22

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『輿車図考』 請求記号 は-22

ガラス使用